

自由応募分科会 2 「一带一路とアジアインフラ投資銀行は中央アジア政治経済をどう変えるか?—複層的複眼的検討—」

報告 2

伊藤亜聖 (東京大学社会科学研究所)

「中国-新興国のネクサスと「一带一路」：カザフスタンとチャイナランドブリッジに注目して」

China - Emerging Economies Nexus and the OBOR: The Case of Kazakhstan and China Landbridge Project

次に伊藤報告では、「一带一路」構想と、それ以前から進みつつあった、中国と新興国との経済関係の深化に着目し、特に中央アジアの大国であるカザフスタン共和国を事例として検討を加える。

カザフスタンに論点を絞るまえに、第一にグローバルなレベルでの傾向として指摘しておきたいことは、中国と新興国との経済関係が、2000年代からほぼ一貫して進化してきたことである。中国と世界各国との貿易データを確認することで、日本と比べた場合にも特に非 OECD 諸国との関係が深いことを指摘する。

報告で第二に指摘しておきたいのは、リージョナルな視点であり、国際経済・政治関係を考える上での、東南アジアと中央アジアの地域性質の異同である。国際生産ネットワークへの統合度が低く、また政権基盤が独裁的な体制であるほど中国の影響力が政治面で大きく表れるとの仮説が、東アジアに関する分析のなかから提案されている。この仮説をたたき台とすると、中央アジア地域は、国際生産ネットワークへの統合度が低い点が東南アジアとの大きな対照をなしている。

第三に、中国とカザフスタンとの経済関係の強化を具体的なプロジェクトに注目して検討を加える。ホルゴスにおける国境貿易の推進、アラシャンコウにおける国境運送インフラの整備など、両国の国境地域での開発計画も進んでいるが、より大きな影響を与えつつあるプロジェクトはチャイナランドブリッジと呼ばれる、中国沿海からカザフスタンを通り、欧州に至る鉄道網の整備とその管理運営体制での協力である。カザフスタン側は目下の原油価格の低下に起因する経済危機からの脱却を目指す政策を始動しているが、その計画のインフラ関連箇所は多分に中国の「一带一路」計画と一致している。このことが示唆しているのは、中央アジア諸国が、中国のイニシアティブを活用しながら、国民経済の成長を目指す姿である。

本報告では、以上の検討を加えることで、中国とカザフスタンの経済関係の深化を、特にリージョナルレベルとナショナルなレベルに位置づける。